

有名な建築家、隈研吾が設計を担当し、地元で育てた樹木から作られた、真庭ビジターセンターのパビリオンへようこそ。このパビリオンは、非常に現代的な佇まいをなすと同時に、天然の材料を活用し、屋内と屋外の空間の境界をあいまいにするという、何世紀もの歴史を持つ日本建築の伝統も取り入れている。

ダイヤモンド形の木製パネルは、C L T（クロス・ラミネイテッド・ティンバー：何枚ものひき板を互いに直交するように積層し、大きなパネルにしたもの）という革新的な建材でできている。C L T 製品は、高い安定性、耐熱性、汎用性を示すが、時代を超えた木の美しさも保持している。また、このパネルは、軽量の、再生可能な資源から作られるため、コンクリートやスチールと比べ環境負荷が軽減される。

C L T では、小さな木の部材を大きなパネルにまとめることが可能なため、真庭の地場の材木を非常に効率的に活用することができる。また、あまり好まれない種類の木材を活かす市場が創出される。外側はヒノキ、内側の板はスギを採用したC L T のパネルは、外観は高価な糸杉材と変わらないが、見えないところに費用の安いスギを使用している。

建築現場では、プレハブ用の特注のC L T を使うことで、コンクリートの乾燥を待つことなく、すぐに構造の組み立てを開始できる。モジュール式の連結が可能なC L T パネルの性質によって、これらの構造を容易に分解、移動することが可能になっている。実際、このパビリオンは、1年目は東京に置かれ、C L T の活用推進のための展示物として使われていた。そしてその後分解、出荷され、2021年3月、この場所に再建された。